

◆ 主 題 名 (生徒に提示するもの)	「自然を守れ」とは言うけれど・・・
------------------------	-------------------

内容項目	見出し	教材名
D - 20	自然愛護	「川端」のある暮らし
価値項目	進んで自然の愛護に努める	
1・2・3・4		
本時のねらい	我々が自然の中で生かされていることを自覚し、できる範囲で自然愛護に努める態度を育てる。	

L
i
n
k

主題発問に向かうための導入・場面発問	
導 入	発 問 「自然(環境)」と聞いて思い浮かべるものは？
	補助発問
場 面 ①	発 問 針江の住民は、どうして「水」を大切にしてきたのだろうか。 (動画視聴:「針江生水の郷」4K 9分41秒・・・水車の場面:5分後まで)
	補助発問 針江の人々が湧き水を作っているのか。
場 面 ②	発 問 委員会の活動を通して、地元の人々にどのような変化が起こっただろうか。
	補助発問 針江地区の住民が気付いた、「故郷のこと・故郷の良さ」とは何だろう。(※留意点)
場 面 ③	発 問 「水も宝なら、ここで暮らす人たちも宝である」という言葉には、どんな思いが込められているのだろうか。
	補助発問 技術が発達した現在でも、針江の住民が「川端」を使い続けるのはなぜだろう。

◆ 主 題 発 問	自然環境を未来に残そうとすると、あなたは何を意識するのだろうか。
-----------	----------------------------------

◆ 学 び 合 い 活 動	場面発問①	場面発問②	場面発問③	主題発問
	個 ⇨ (ペア ・ グループ ・ フリー) ⇨ 個			

留
意
点
等

地球のため、人類のため、未来のために「自然を守れ」と長く言われる。長く言われるが、その中継ぎはついに一石を投じてみよう。人間が地球を支配し、環境を破壊し、あらゆる生命の存続を脅かしていることは事実である。だからこそ、「守らねば」という上から目線の使命感を抱くのは当然かもしれない。しかし、我々は支配者でありながら、その自然環境の中に生まれ落ちた一つの生命体でしかない。「守る」対象は、そもそも我々が壊してきたものに過ぎない。人間は、この自然の中で生かされる存在であることを謙虚に受け入れる必要がある。だからこそ、生活の利便性を追求しながら自然を壊さずに生きる知恵をもち続けなければならない。幸い、先人たちはその知恵を脈々と受け継いできた。現代に生きる我々も、それを見習うべきである。

※針江生水の郷委員会の活動内容から、生徒の思考が「郷土愛」に向かないよう注意する。彼らは、郷土や環境を守るのではなく、昔からの知恵を受け継いで豊かな水のある暮らしを未来につなげようとしていると捉